

## 児玉康比古 議員



### (一問一答方式)

- ①機能別消防団員
- ②学級講座費
- ③巡回文庫
- ④公共用代替バス等の運行

### 機能別消防団員について

**問** 市内の消防団は24分団、1,603名が定数である。昨年度

から機能別消防団員制度を設け、団員確保に努めているが、まだ百四十数名が確保できておらず、欠員状態であると聞いている。また、60歳を過ぎてもなお活躍いただいている消防団員の方もいらっしゃるが、若手の後任者が確保できない主な要因は何か。

地域防災の要となっている消防団(写真は愛媛県消防操法大会に出場の大洲市消防団)



**答** 若手の団員を確保できない主な要因は、若年層人口の減少、また就業者における被雇用者が占める割合の増加など、消防団の入団対象となっていた層から入団者を確保することが難しくなっています。

### 学級講座費について

**問** 公民館で実施する学級活動に対して支給されている学級講座

座費は、おおむね一律で支給されている。本来、学級活動は市民の社会教育を学ぶ場としての役割を担っており、市民の皆様には受講する権利がある。例えば、健康診断の受診率が高いとか低いとかによって、その自治体の健康づくりの取り組みが評価されるのと同様に、対象者に対する受講の割合など、公民館ごとに評価すべきである。そのためにも、受講率に応じた予算、参加人数に応じた予算配分にすべきと考えるがどうか。

**答** 各種学級講座の開設に際しては、学級に運営委員会を設けるなど、地域の持つ課題や学級生の学習希望を取り入れるよう心がけています。そして、どの公民館においても、男女を問わず各年代にわたって広く生涯学習の機会を享受していただきたいという願いから、各公民館におおむね平均化した学級講座費の予算配分を行っています。

受講生が多いために、配分した予算での実施が困難な公民館から相談があった場合は、ほかの公民館との調整を行い、予算の再配分をするなど柔軟に対応していくこととしています。

### 公共用代替バス等の運行について

**問** 本市に限らず社会問題になっているのは、高齢者による車での交通事故の増加である。

ぐるりんバスについては、市民の足となっていると高く評価されているが、肱南、肱北地区と徳森地区だけでなく、その周辺部にも運行してほしいと、高齢者を中心に多くの方々から要望をお聞きする。市として、特に高齢者の交通手段の確保をどのように支援する考えなのか。

**答** 高齢化の進展に伴い、公共交通の充実を求める声が日に日に高まっているということは、市としても十分承知しているところです。そのため、将来を見据えた本市の交通体系のあり方について、来年度、公共交通の基本計画となる地域公共交通網形成計画の策定に向けて取り組むこととしています。

その中で、福祉バスやスクールのバスの活用方法、またデマンド型の公共交通や自治会が主体となつて運行する公共交通など、高齢化社会に対応でき得る新たな交通手段の導入についても、検討を行っていきたいと考えています。